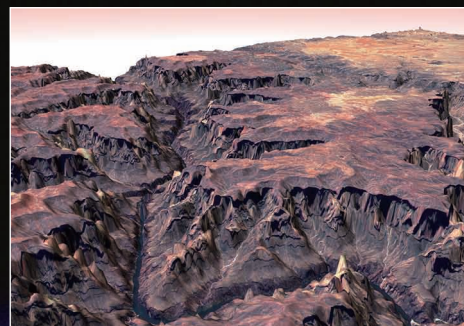


PRISMで2方向から観測したデータからつくったデジタル標高モデルにパンシャープ画像[®]を重ね合わせて鳥瞰図にしています。※低解像度のカラー画像と高解像度のモノクロ画像を組み合わせで作成された高解像度のカラー画像



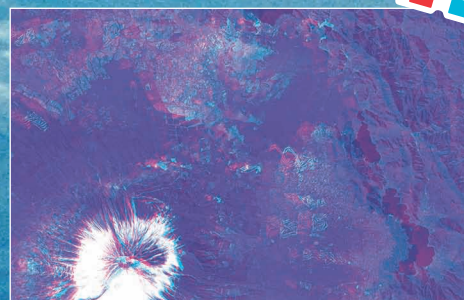
■ グランドキャニオンの鳥瞰図



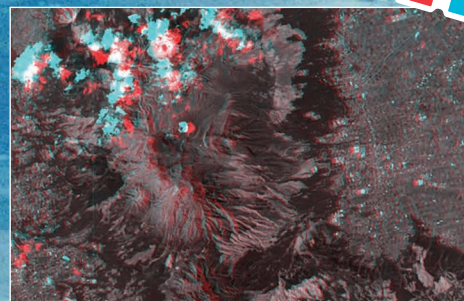
■ グランドキャニオンのパンシャープ画像

「だいち」が見た地球のすがた

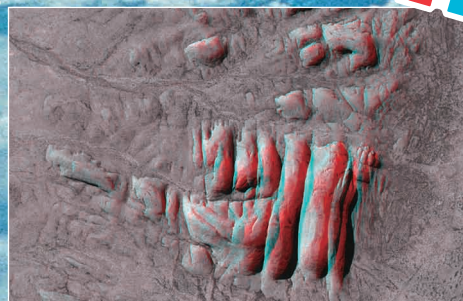
「だいち」はこれまでの地球観測衛星の開発で培った技術をもとにいろんな機能をパワーアップ、今までよりも格段にいい画像を撮ってくれるスーパー衛星です。2006年1月に打ち上げられてから、こんなすごい画像を取得しています。



■ 富士山(3D)



■ 阿蘇山(3D)



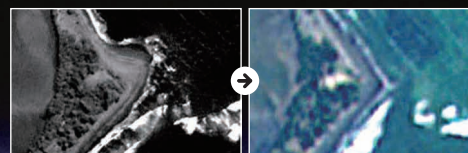
■ カタ・ジュタ(3D)



3Dメガネ
ホームページで
型紙ダウンロード
<http://www.satnavi.jaxa.jp/magazine/>

災害にいち早く対応する「だいち」

こんなすごい画像を取得できる「だいち」の大切なミッションのひとつに「世界各地で発生した大規模災害の状況把握」があります。近年は洪水、土砂崩れ、地震、火災といった災害が世界中で増加しています。「だいち」は大規模な災害が発生したときには、すばやくその地域の状況を撮影します。そして

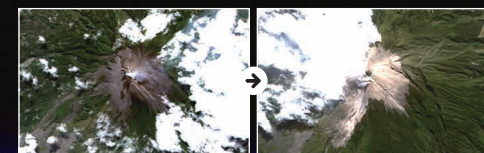


■ ジャワ島南部のパガダランの津波被災地

被災国に無償で衛星データを提供して、災害状況の把握や復興に役立ててもらっているのです。打ち上げからの1年間で、すでに20回以上も災害観測を行って、活躍しています。JAXAは取得した衛星データの解析を即時に行って、いち早くその国に渡すよう心がけています。



タイからの感謝状

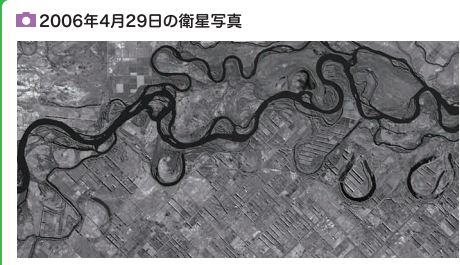


■ インドネシア・ムラピ山

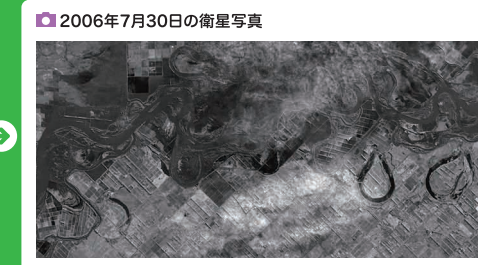
「だいち」が撮影したアルゼンチン中部の洪水

雨季のアルゼンチン中部で水害が発生しました。左写真は洪水発生前の2006年4月29日に撮影したものです。

それに対して右写真は発生後の2006年7月30日に撮影したものです。洪水の様子(右写真の暗くなっている箇所)が確認できます。



■ 2006年4月29日の衛星写真



■ 2006年7月30日の衛星写真

撮影したセンサー：パングロマチック立体視センサー「PRISM」(プリズム)

アラスカ・タイガ帯で多発している森林火災

北極域のタイガ帯は、地球上のたくさんの二酸化炭素(CO₂)を吸収していますが、最近では森林火災が多発して、吸収する以上のCO₂を火災によって放出

してしまい地球温暖化への影響が懸念されています。「だいち」は2006年夏、北海道大学、朝日新聞社と協力して森林火災の影響を調査しました。



■ 森林火災跡地とピンク色のヤナギラン

近年、加速しているといわれる地球環境破壊。災害の前後といった短期的な観測のほかにも、長期的に(JAXAの地球観測の歴史は25年以上)地球がどう変わっているかを「だいち」などの地球観測衛星で観測し続けることは、わたしたちに普段目にする事ができない地球の現実を知らせてくれるきっかけになっています。